



葉山先生の思い出(葉山幸嗣准教授追悼号)

著者	樋口 弘夫
雑誌名	和光経済
巻	52
号	1
ページ	vii-vii
発行年	2019-12
URL	http://id.nii.ac.jp/1073/00004696/

葉山先生の思い出

樋口 弘 夫

若くして亡くなられた葉山先生にたいし、追悼の意を表します。

葉山先生は、経済学科において、必修科目のミクロ経済学、マクロ経済学を担当されました。これまでのミクロ・マクロ経済学の授業では、経済理論を数学アレルギーのある学生に理解させるために、図表やグラフを多用して、グラフが自在に移動したり、図表が縮小・拡大する「視覚に訴える」授業が多く展開されてきました。しかし、葉山先生はこうしたパソコンを利用したやり方に抗するかのようになり、あえて黒板にチョークを用い、均衡点のシフトや生産曲線と漸近線を見事に描くという、かつての理論経済学教員の名人芸を披露されたのです。そうしたスタイルの授業が、学生にとりインパクトが大きかったようです。うまくはまったときに、どうだというポーズをなさるのですが、それがわかる学生は結構限られている……など、学生との間でかなり面白いやりとりが繰り返されたようです。ファッション、身なり、さらにライフスタイルまで、すべてにこだわりのある葉山先生らしさは、学生の人気も高く、ゼミナールにはファンの女子学生が集う楽しい雰囲気ともっばらの評判でした。

葉山先生は学科のどの先生からも愛されていました。山田久先生が退職を前に、研究室の書物を整理されているときのことです。山田先生がシカゴ大学で過ごされた時期、当時の経済学のフロンティアにいた先生方のサイン入りの書物を、研究室に置かれておられました。その中から、数冊を書棚の上に置かれ、「これは葉山さんから予約されている……」と嬉しそうに話された様子が忘れられません。山田先生が和光大学で率いてこられた理論経済の授業を任せられる教員が育ったことに安心されたのだと思います。

葉山先生は、ゼミナールについても、年末に複数の大学の先生方と合同のゼミナール討論大会を展開され、合宿で学生を鍛えるといった力の入れようでした。こうした企画は、前任校で苦勞を共になさった先生方と協力して運営なさっていたとうかがいました。

そうした先生のお一人からうかがったエピソードを紹介したいと思います。前任校では、ほぼ同年代の3人の先生が新学部設置に関する業務を割り振られ苦勞なさったそうです。それでも、2年間ほぼ毎日、仕事の話から日常生活の悩みまで、腹を割ってなんでも包み隠さず語り合う仲になったとうかがいました。

その中でも驚かされたものがありました。一見穏やかな葉山先生ですが、空手家という経歴もあり、正義感が人一倍強いばかりか、実際に気も強く、周囲の教職員6名の待遇改善に係わり、法人に真っ向から立ち向かったというのです。私には想像もつきません。各先生は後に各地の大学に移られましたが、その際、葉山先生はとくに喜ばれ「和光大学は、むちゃくちゃ居心地がいいよ」とおっしゃっておられたのが印象的だったとうかがっております。

葉山先生にとり、苦しい業務のなかで育まれた友情・連帯を大切にされ、それぞれが本来の研究と教育に打ち込める環境に移られてからも、年末にゼミナール検討会を開催して、相互に研究・教育を高め合う営為を続けられ、そうした研究・教育の成果を著作にまとめている準備をなさっていたとうかがいました。

学科長となられてから、葉山先生は時々私の研究室にお越しになり、学科運営の進め方に関する説明などをいただきました。ある日、「山梨にでかけてウイスキーを買い求めました」とお土産を持参され

ました。「地元のワイン醸造所なのですが、ウイスキーも作っていて結構おいしいです」とのこと。アルコールにもかなりのこだわりをお持ちで、ご自宅ではスピリッツも召し上がるとうかがいました。学期末の懇親会でウイスキーをご一緒しましたが、よく笑われる良いお酒でした。私に残された葉山先生の記憶はその時の素敵な笑顔です。

ここに、葉山先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

（なお、この思い出をまとめるにあたり、中央学院大学商学部の日隈信夫先生より、葉山先生とのご交遊に関する資料をいただきました。ここに記して御礼申し上げます。）